

国際バルク戦略港湾選定に向けた 計画書(公表資料)



平成22年12月8日

港湾管理者:千葉県

目的及び目標

《目的》

鉄鉱石受入港湾の能力増強と、当該港湾を軸とした船舶利用の規制緩和策とを組み合わせることによる資源輸送コストの低減ならびにその波及効果を通じ、「最小の事業費で最大の効果発揮」を企図し、あまねく日本の産業競争力の向上に資すること。



木更津港は、この目的に資することが可能

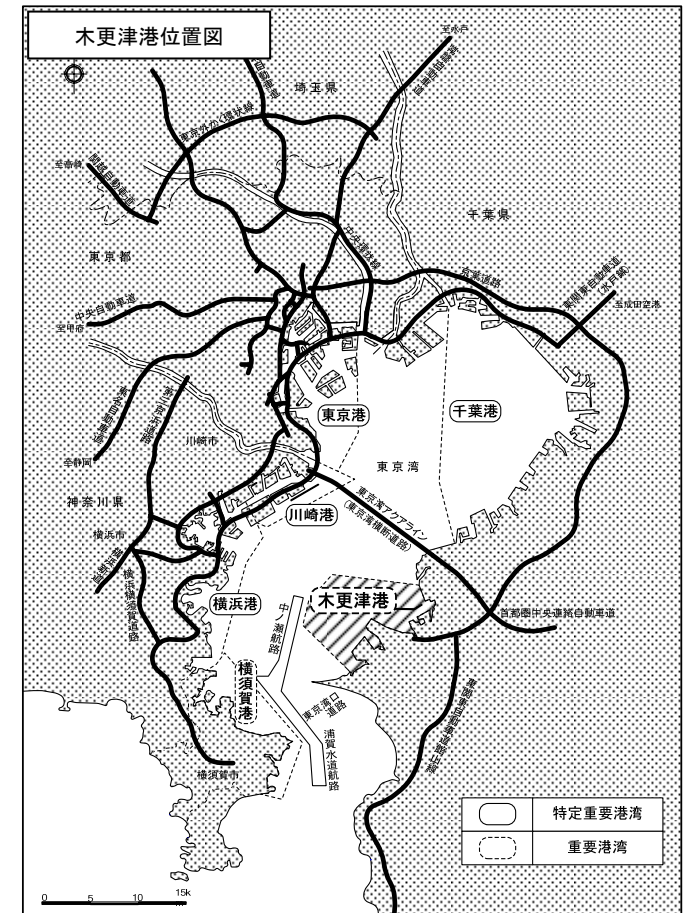
《目標》 2020年までにVLOC船が満載で入港可能な機能を有するよう取組むこと



具体的には、泊地、航路の所要範囲について、VLOC船が満載で入港可能となる水深23mまでの整備（浚渫）を行うとともに、当該船舶が着岸可能な岸壁及び高効率な荷揚げを可能とする荷役施設を整えることとしたい。

《対象立地企業》

新日本製鐵(株)君津製鐵所



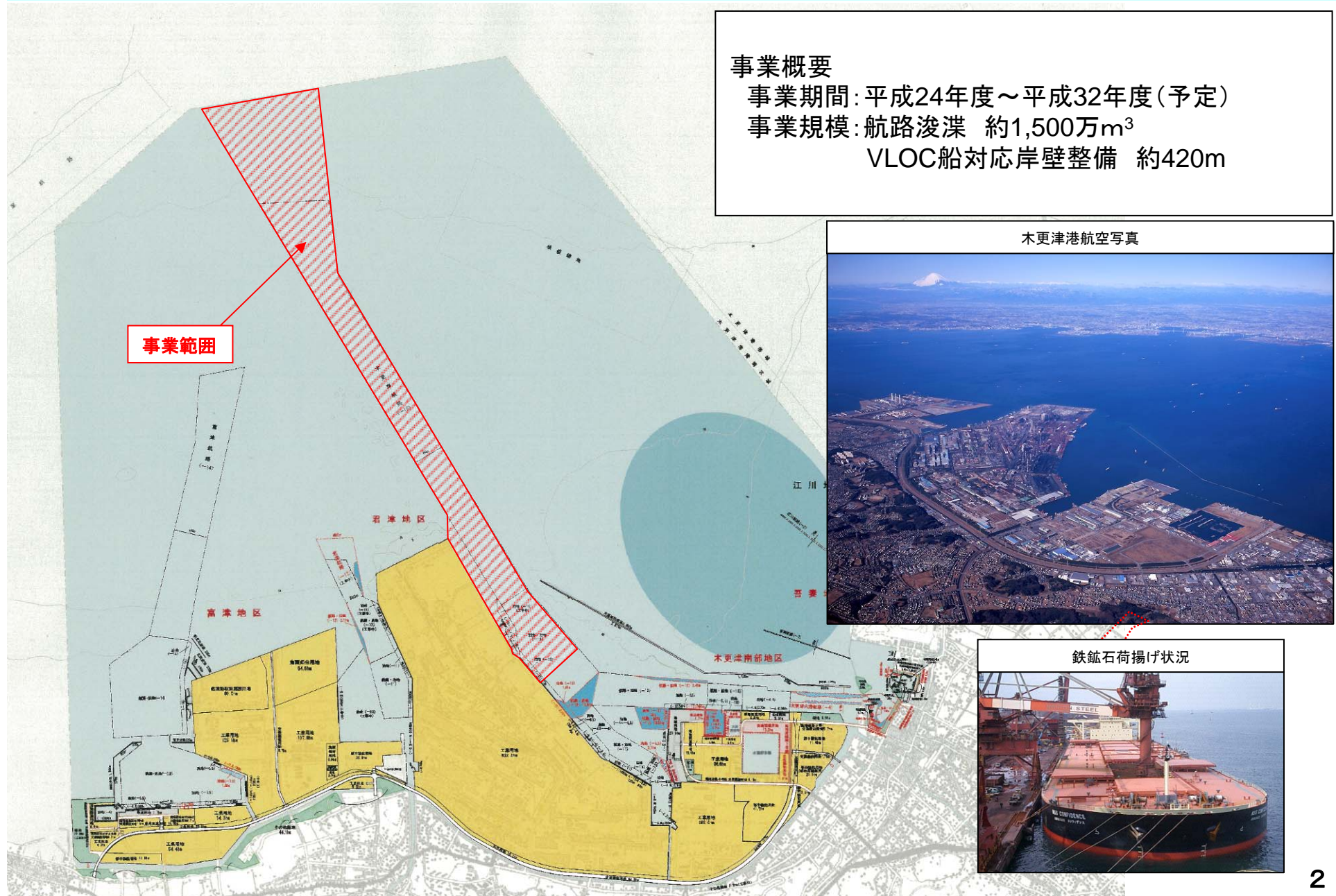
大水深化方案における事業概要

事業概要

事業期間:平成24年度～平成32年度(予定)

事業規模:航路浚渫 約1,500万 m^3

VLOC船対応岸壁整備 約420m



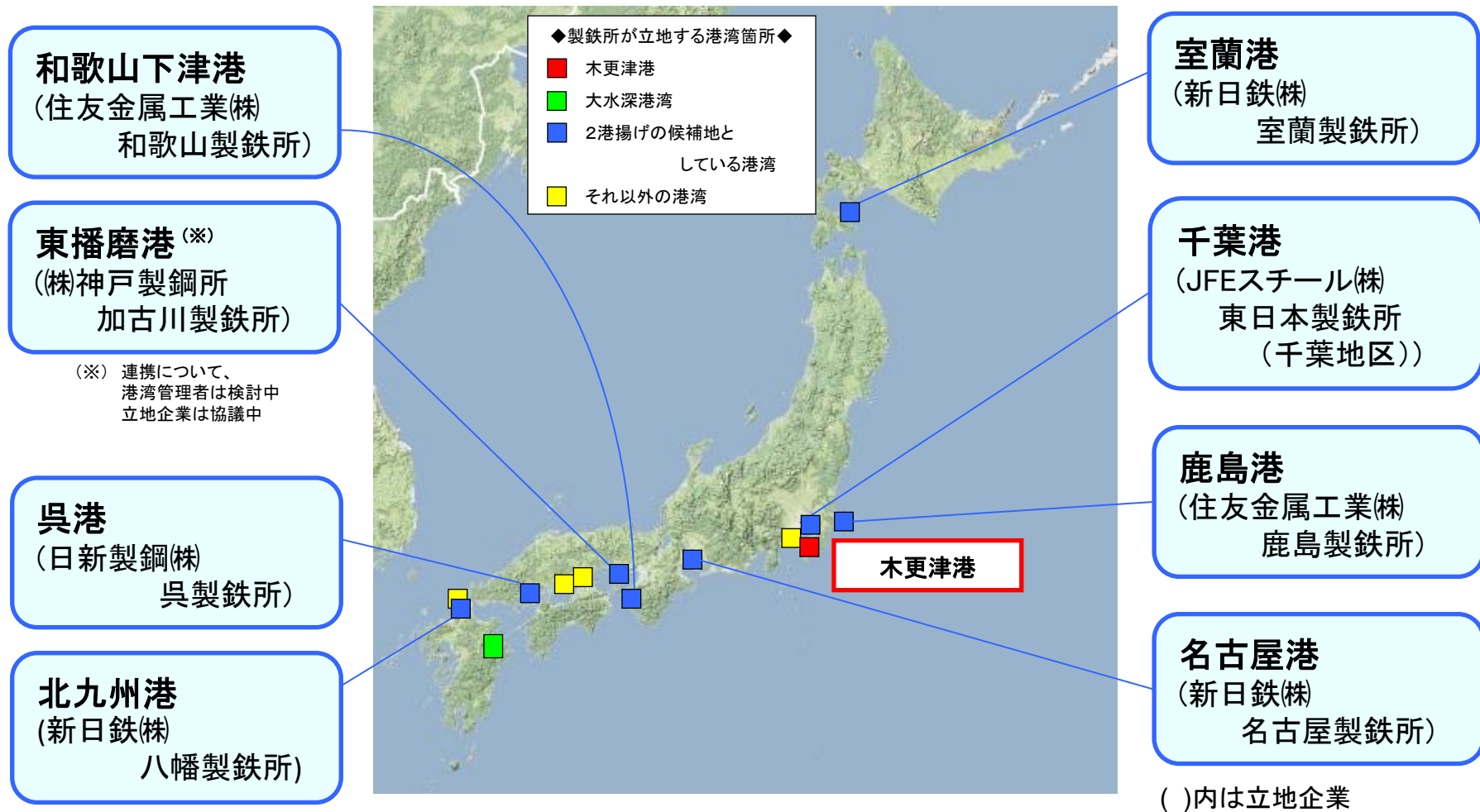
木更津港航空写真



鉄鉱石荷揚げ状況



連携港湾の名称と位置



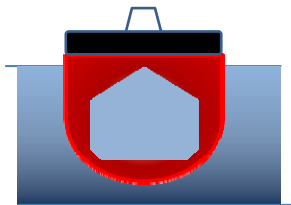
我が国全体での産業競争力向上という戦略港湾の目的から、現時点で合意を得られていない港湾との間でも、引き続き連携を呼び掛けていきたい。

VLOC船 共同配船イメージ(2港揚げ)

木更津港は、1港目に期待されるバッファーとしての機能を十分に発揮することができ、多くの企業との共同配船が可能。



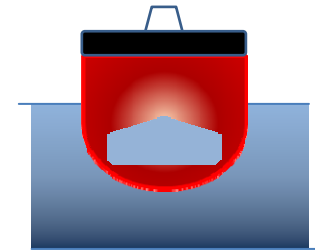
①大水深鉱石積地から



(ブラジル・南アフリカ)



③二港目へ



喫水上昇

②一部荷下ろし



木更津
入港